

場所	岩手県岩手郡雫石町
面積	1.9604ha
活動目的	・ 周辺地域の生態系ネットワークに欠かせない場所であることを認識し、従業員や地域と連携して生物多様性保全の活動を継続する。 ・ 活動の発信により、世界中の子供を含む全ての世代の方々に、生物多様性保全の重要性を伝え、意識の向上と活動の拡大を目指す。



サイト概要	当サイト内の「わくわくの森」は会社創業（1971年）以前から敷地内に存在した森林を50年以上維持してきた森である。現存植生図でクリ・コナラ群集およびアカマツ林にて構成。2011年から専門家の指導を受け、林床に里山に代表される山野草の自生が確認されるようになった。また「わくわくトープ」は2022年に岩手県立大学との共同研究で設計し会社敷地内に創出した水辺ビオトープである。池の水源には工場の雨水を活用し資源循環を実現、自然の力を利用した水の浄化機構を持ち、いきものの生息環境を維持する。共にお客様の見学コースや子ども達への環境教育イベントなどにも活用し、私たちの活動と生物多様性の重要性を発信する拠点となっている。
-------	--

土地利用の 変遷

1948年の国土地理院航空写真より、現在の会社敷地を含む周辺は自然林であった。1970年に会社設立し敷地の一部となったが、当サイト内の「わくわくの森」は現在に至るまで自然林の状態を維持してきた。
「わくわくトープ」のエリアは元々弊社の敷地ではなく、1960年～1990年頃は果樹園として使用され、その後一般の方が建築資材置き場として利用されていたが、2021年に弊社が土地取得し、2022年にビオトープを造成した。

サイト周辺の 環境

サイトの南側には人造湖の御所湖があり、その周辺には森林が広がる。北側には農場と牧草地が岩手山麓まで繋がる。西側には名勝地にしていされる七ツ森の山々があり、同サイトはこの中心に位置し緑の回廊の一部を形成している。

アピール ポイント

- ・元々自然度の高い二次林を50年以上維持し、更に生物多様性向上の活動により里山の植生と景観を形成している。
- ・敷地内の雨水を自然の力で浄化しながら池の水源に利用、水資源循環を実現している。
- ・生物多様性を保全する管理作業は外部に委託せず、専門家の指導を受けながら従業員が自らの手で管理や作業を行っている。
- ・地域の子供たちに生物多様性の大切さを教える、ワークショップ形式の環境教育を定期的に行う。企画、運営、講師も従業員が担当。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

サイト内の「わくわくの森」エリアが対象。アカマツ、コナラ、クリなどで構成、現存植生図より、クリ-コナラ群集の一部であり、植生自然度は7。樹木は毎木調査を実施し、結果を樹木台帳にまとめ、維持管理を行っている。生物多様性の向上を意識した整備活動を進めており、林床にはササバギンラン、ヤマジノホトトギス、シロバナエンレイソウといった里山に代表される植生が見られる。

【主な植生】

「わくわくの森」の植生はクリ-コナラ群集であり、一部にアカマツが中心のエリアが存在する

【確認された主な動植物など】

〈樹木〉

アカマツ、コナラ、クリ、ミズナラ、ミズキ、カスミザクラ、ホオノキ、ヤマナラシ、ハリギリなど

〈植物（山野草）〉

ササバギンラン、ヤマジノホトトギス、シロバナエンレイソウ、ヤマユリ、ウバユリ、フタリシズカ、キクザキイチゲ、モミジイチゴ、マムシグサ など

〈動物（哺乳類、鳥類）〉

ホンドタヌキ、ホンドテン、ニホンカモシカ、キツネ、ツキノワグマ、ニホンリス、トウホクノウサギ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ハクセキレイ、ヤマガラ、アカゲラ、アオゲラ、キジ など



写真の説明：ササバギンラン



写真の説明：ヤマジノホトトギス

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

わくわくの森は草刈りとウッドチップの遊歩道で歩きやすい工夫を行っており、わくわくトープには池を渡る橋を設置、子供向けの環境学習イベントやお客様に見学いただくなど、自然と触れ合い、コミュニケーションをもたらす場となっている。わくわくトープの池の水は、工場の雨水を集めビオトープ内で自然の力で浄化し、池の水源に利用する事で資源循環を実現している。【サイトの追加情報に詳細を記載】

【主な植生】

わくわくの森：クリ-コナラ群集の一部であり、部分的にアカマツが中心のエリアも存在する

わくわくトープ：周辺地域に自生する樹木、植物を植栽している。

樹木（オオヤマザクラ、ハウチワカエデなど）植物（アゼスゲ、カサスゲ、チゴザサ、サンカクイなど）

【確認された主な動植物など】

●「わくわくの森」エリア

〈樹木〉アカマツ、コナラ、クリ、ミズナラ、ミズキ、カスミザクラ、ホオノキ など

〈植物〉ササバギンラン、ヤマジノホトトギス、シロバナエンレイソウ、ヤマユリ、ウバユリ、フタリシズカ、キクザキイチゲ、モミジイチゴ、マムシグサ など

●「わくわくトープ」エリア

〈樹木〉オオヤマザクラ、ハウチワカエデ、ヤマモミジ、シラカンバ など

〈植物〉クサレダマ、ヌマトラノオ、サンカクイ、ショウブ、エゾミソハギ、エンコウソウ、ノハナショウブ、カサスゲ、ミツガシワ、タチギボウシ、アゼスゲ、ハンゲショウ など

〈昆虫〉ミズカマキリ、コミズムシ、マツモムシ、ヒメゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ など

●「わくわくの森」「わくわくトープ」共通

〈動物（哺乳類）〉ホンドタヌキ、ホンドテン、ニホンカモシカ、キツネ、ツキノワグマ など



写真の説明：環境学習イベントでの記念撮影
(場所：わくわくの森、間伐材で作った木道の上)



写真の説明：子どもが参加した昆虫調査の様子
(場所：わくわくトープ、池に掛かる橋の上)

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

本サイトの「わくわくの森」は元々自然林であるが、2011年から本格的な生物多様性保全活動の開始後、里地里山に見られる様な山野草が次々と確認されるようになり、その中で希少な植物も確認された。
「わくわくトープ」は地域の希少種保護の目的で定着化を目指し、移植を行ったものである。
昆虫や動物類は自然に入り込んだもので、一部の昆虫類は定着しつつある。

【確認された希少種】

環境省レッドリスト2020、岩手県レッドリスト2024年版(留意種をのぞく)の掲載種11種（植物7種、昆虫類4種）が確認されている。

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
〈わくわくの森・わくわくトープの役割〉 ・周辺エリアの生態系ネットワークを繋ぎ、生物多様性の維持向上に貢献する。 ・子供たちへの環境教育やお客様への見学など、生物多様性の重要性を外部に発信する。 これらの役割を果たすための活動を計画的に実施する。 〈活動内容〉 1. 整備作業 清掃作業、草取り、草刈り、枝拾い、蔦切り、間伐 など ※わくわくトープについては1回／月（4～10月）の定期作業を設定 2. モニタリング モニタリング計画を参照 3. その他活動（イベント等） 〈定例〉 ・セイコーわくわく環境教室（子供向け環境学習）：1回／年（夏～秋） ・地域とはじめる環境報告会：1回／年（9～11月） ・社内環境活動：2回／年（春・秋） ・自然観察会：1回／年（時期はテーマにより設定） 〈不定期〉 ・見学や取材への対応	【モニタリング対象】 ・植物、昆虫、動物（鳥類、両生類、爬虫類、哺乳類） ・保全等の活動による生物多様性貢献度 【モニタリング場所】 「わくわくの森」「わくわくトープ」 全域 【モニタリング手法】 A.植生の目視観察 B.いきものモニタリングシートによる記録 C.土地利用通信簿®による活動評価 D.無人撮影カメラ E.巣箱の目視観察 F.外来種の目視観察 G.毎木調査 H.昆虫調査 【モニタリングの実施時期及び頻度】 A:1回／月程度（通年）、B:1回／年（通年）、C:1回／年（1～3月）、 D:通年実施、E:1回／年（9～10月）、F:1回／年（5～10月）、 G:1回／10年、H:3回／年（春、夏、秋） 【モニタリング実施体制】 ・B、C、G、H：担当者（従業員）および必要に応じ専門家の協力を得る ・A、D、E、F：担当者（従業員）による実施